

CSR報告書 2019



トップメッセージ

Top Message



廃棄物に関する社会環境について

近年、廃棄物を取り巻く社会環境が大きく変わりつつあります。特に注目されているのはプラスチックです。廃プラスチック類は、中国や東南アジア諸国諸国で受入規制が強化されてきています。

これにより、日本国内での廃プラスチック類の処理に滞りが生じています。環境省は自治体に対し処理の支援を要請いたしましたが、現時点では進捗ははかばかしくないようです。また、処理施設における処理前の保管量の上限を緩和する政省令の改正も予定されています。処理の問題に加えて、「海洋プラスチック」の生態系に与える地球規模の影響も取りざたされています。我々処理業者においても、小手先ではない、抜本的な対策を講ずることが求められてきています。

株式会社ウチダは循環型社会の構築に寄与し続けます

株式会社ウチダは、1985年の創業以来今日に至るまで、【棄てない・埋めない・燃やすない】をキーワードに、廃棄物の100%再資源化を目指して処理を行っています。

中でも、木くずは当社オリジナルのスイングハンマー式破碎機で粉碎し、全量を家畜の飼料に使用しています。使用済みの飼料は堆肥化された後、高原キャベツや米の良質な肥料として使用された後、自然に帰るという理想的なリサイクルループが構築されています。

近年は、木くずに加え、廃塩ビのリサイクルにも注力しています。廃塩ビ管を中心に、これも当社製破碎機により、適切な粒度に破碎を行うことで、再生塩ビ原料の製造を行っています。

資源の循環的な利用に加え、廃棄物の更なる適正処理に努めてSDGsに貢献する、そんなことをウチダは常に考えています。

資源循環型社会への貢献こそが私たちの使命です

当社は廃棄物処理施設を工業専用地域に設け、建築基準法第51条、廃棄物処理法第15条に対応させるだけでなく、破碎機をはじめとするほとんどの処理施設を自社で開発・製作するとともに、施設の維持管理も自ら徹底して行うことと併せて、常に環境負荷の少ない高品質な再資源化製品を提供できる体制を実現いたしました。更に、コンプライアンス（法令順守、compliance）、CSR（企業の社会的責任、corporate social responsibility）に加え、SDGs（Sustainable Development Goals）の考え方を企業経営に取り込み、ISO14001認証に基づく環境管理や、労働安全衛生管理、定期的な社員教育、ホームページによる情報公開等を積極的に行うことを心がけています。

当社はこの仕組みをさらに向上させることで、排出事業者、地域の皆様、製品を数多くご愛用いただいている多くのユーザー様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様から常に信頼され、愛される企業を目指しています。

目 次

Contents

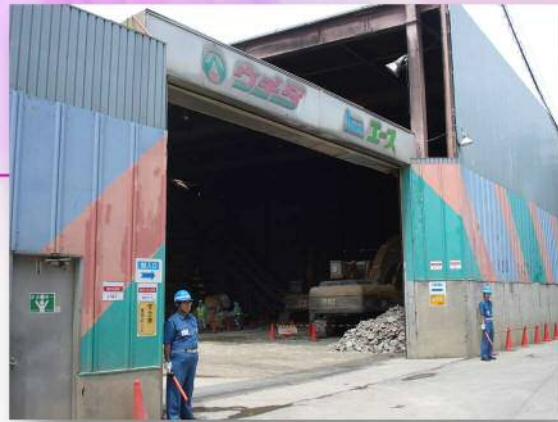
会社概要	3
組織図	4
沿革	5
ハイライト	7
環境とのかかわり	11
地域・社会とのかかわり	21
お客様とのかかわり	22
社員とのつながり	23
第三者意見	25



会社概要

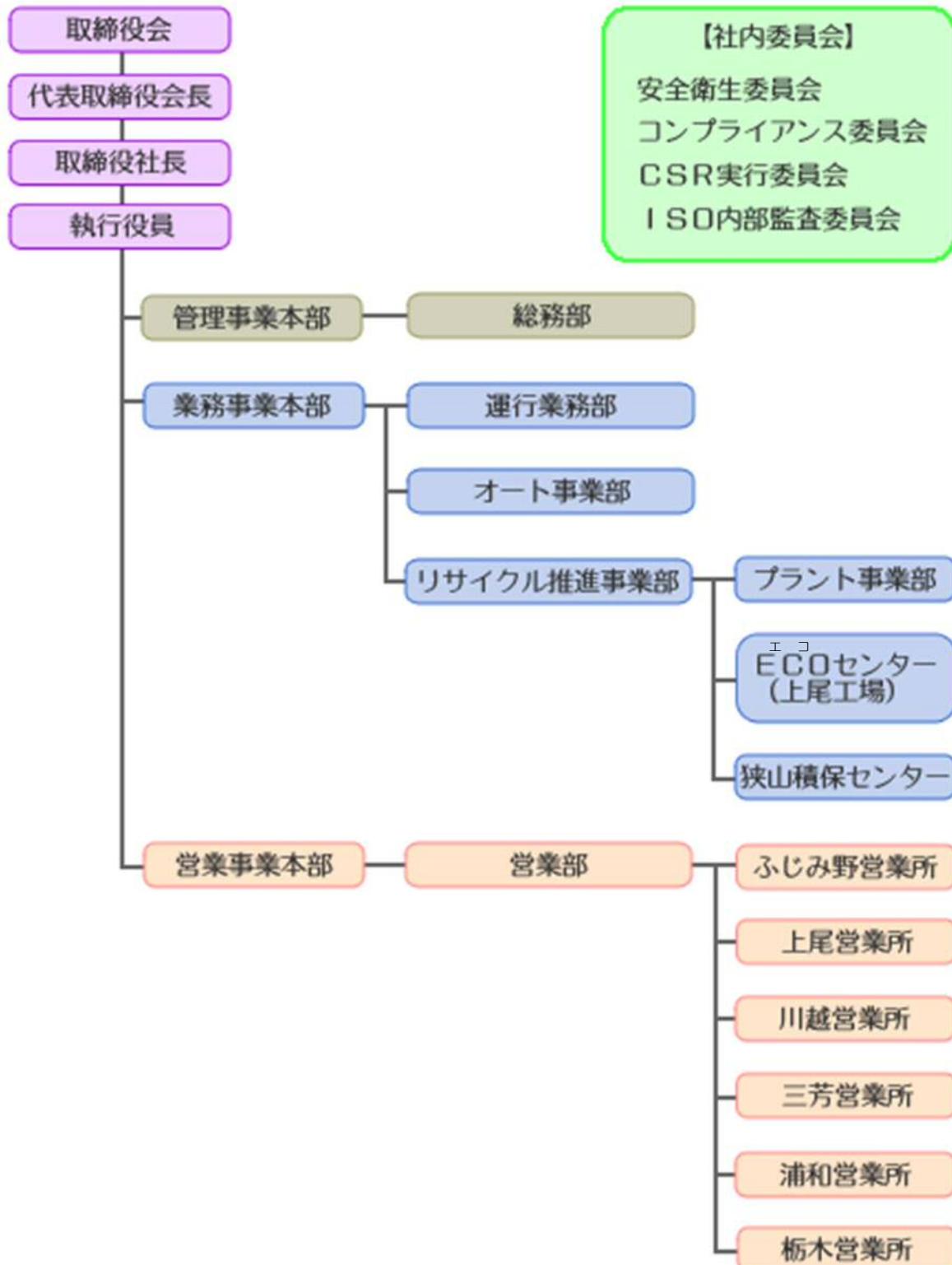
Company Guide

商 号	株式会社 ウチダ
資 本 金	5,000万円
会 社 設 立	1985年（昭和60年）2月20日
代 表 者 氏 名	代表取締役会長 内田 一二三
役 員	取締役社長 内田 千恵子 取締役 日野 弘幸 監査役 日野 佳乃与 専務執行役員 内田 朋美
本 社	〒356-0034 埼玉県ふじみ野市駒林18番地 TEL : 049-263-9777
ふじみ野営業所	〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10 TEL : 049-293-1128 FAX : 049-293-1126
浦 和 営 業 所	〒330-0063 埼玉県さいたま市浦和区高砂4-7-11
川 越 営 業 所	〒350-1131 埼玉県川越市岸町二丁目18番4号
三 芳 営 業 所	〒354-0043 埼玉県入間郡三芳町竹間沢450-17-101
栃 木 営 業 所	〒329-3437 栃木県那須郡那須町大字蓑沢527-2
狭山積保センター	〒350-1313 埼玉県狭山市上赤坂字妻恋ヶ原589番地1他 塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点
上 尾 工 場	〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1 (上尾領家工業団地内) TEL : 048-782-0201 (代) FAX : 048-782-0204 塩化ビニル管・継手管協会指定受入拠点、 塩ビ管・継手リサイクル契約 中間処理会社
栃 木 工 場	〒329-1411 栃木県さくら市鷺宿字大久保2864-1 (建設中) (設置許可 第300-4号、第300-5号)
事 業 内 容	産業廃棄物収集運搬業 営業地域：関東一円 特別管理産業廃棄物収集運搬業 産業廃棄物処分業 産業廃棄物再生事業 一般廃棄物収集運搬業 一般建設業 埼玉県知事 許可(般-27)第51123号 土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業 舗装工事業、しゆんせつ工事業、水道施設工事業 埼玉県知事 許可(般-1)第51123号 解体工事業 リサイクル機器設計・製造・販売業 中古自動車販売業
従 業 員	48名 (平成31年3月現在)
主 要 取 引 銀 行	埼玉県信用金庫（上福岡支店）・三菱UFJ銀行（新座志木支店） 三井住友銀行（上福岡支店）・武蔵野銀行（上尾支店）
加 盟 団 体	一般社団法人埼玉県環境産業振興協会 一般社団法人東京都産業資源循環協会 公益社団法人栃木県産業資源循環協会 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 塩化ビニル管・継手協会（賛助会員）



組織図

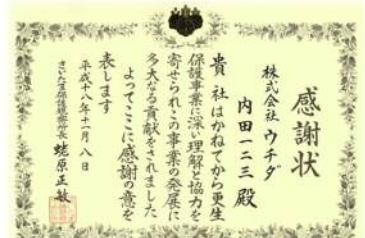
Organization system



沿革

History

- 1985.02** 有限会社内田商事 設立（埼玉県上福岡市）
- 1987.10** 埼玉県を中心に産業廃棄物収集運搬事業を開始
順次営業エリア拡大
営業部設置（埼玉県狭山市）
- 1992.06** 埼玉県富士見市に営業本部を設置
(みずほ台営業所)
狭山営業所は狭山積保センターに
- 1994.09** 埼玉県知事より建設業許可取得
- 1995.05** 「株式会社ウチダ」に社名変更
資本金を5000万円に増額
- 1997.05** 産業廃棄物中間処分業を開始（埼玉県許可取得）
- 1998.06** 廃棄物再生事業者登録取得（埼玉県）
- 1998.12** 計量証明事業登録取得（埼玉県）
- 2000.04** 廃棄物破碎処理機の自社開発に着手
- 2004.01** ISO14001認証取得
- 2004.01** 特別管理産業廃棄物収集運搬業を開始
- 2004.06** 電子マニフェストシステム加入
- 2005.01** 一般貨物自動車運送事業許可取得
- 2006.12** 更生保護事業への貢献がまとめられ、
さいたま保護観察所長より感謝状
- 2006.01** 緑のトラスト運動協力企業として
- 2007.03** 埼玉県知事より感謝状
- 2007.03** 上尾工場の保管施設を追加
- 2007.11** 狹山積保センターで石綿含有産業廃棄物の
積替え保管可能に
- 2008.12** 上尾工場拡張
- 2010.02** 東京都産廃キスパート認定取得
(収集運搬業（積替え保管を除く）)
以降、現在まで更新認定取得
- 2010.05** (社)埼玉県産業廃棄物協会より
「優良事業所表彰」を授与される
- 2011.04** 塩化ビニル管・継手協会の契約中間処理工場に
指定される
(受入拠点：上尾工場・狭山積保センター)



沿革

History

2011 産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業 優良確認・
2012 優良認定を受ける（埼玉県他）

2012.06 緑のトラスト運動協力企業として埼玉県知事より感謝状
(公社)全国産業廃棄物連合会より
「地方優良事業所表彰」を受ける

2012.10 廃棄物再生事業者登録事業内容の変更（埼玉県）

2013.03 上尾工場の減容施設の廃止、保管施設の追加・廃止・保管面積の拡大

2013.08 上尾市社会福祉協議会より「感謝状」を授与される

2014.12 東京都産廃工キスパート更新認定取得
(収集運搬業(積替え保管を除く))

2015.01 埼玉県多様な働き方実践企業認定取得(シルバー)

2015.06 緑のトラスト運動協力企業として埼玉県知事より感謝状

2015.10 さいたま市産業廃棄物収集運搬業の許可が合理化により許可期限で失効

2015.11 埼玉県の3S運動推進事業者に登録

2016.03 上尾工場にトロンメル導入

2016.06 (公社)全国産業廃棄物連合会より「地方功労者表彰」を受ける

2016.11 ふじみ野市長より、ふじみ野市・三芳町環境センター建設事業推進への貢献について、感謝状を授与される

2017.05 (公社)栃木県産業資源循環協会より感謝状を授与される

2017.12 東京都産廃工キスパート更新認定取得
(収集運搬業(積替え保管を除く))

2018.07 緑のトラスト基金への寄附について埼玉県知事より感謝状を授与される



★★★



ハイライト

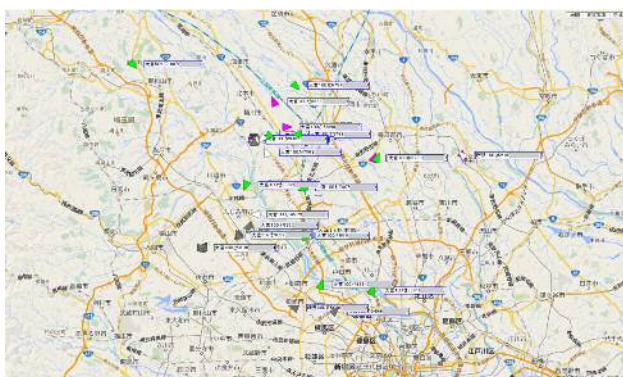
デジタルタコグラフの全車導入

Highlights

株式会社ウチダでは平成25年10月にデジタルタコグラフを全車に搭載しました。

デジタルタコグラフとは車両の運行にかかる速度・時間等を自動的に記録する運行記録装置です。

導入したデジタルタコグラフは、運行データをリアルタイム通信で事務所に送信。運行管理、ドライバーの安全運転、労務管理をサポートしています。また、運転日報を確認することで、ドライバー自身の安全運転、エコドライブへの意識向上を図っています。



GPSにより全車両の運行状況を把握



デジタルタコグラフを搭載した車両内部

運転日報

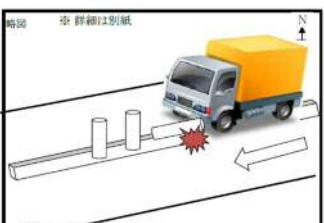
事故記録（一部）



原因 相手側確認不足



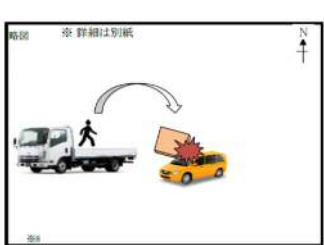
原因 積荷の確認不足



廣西農業



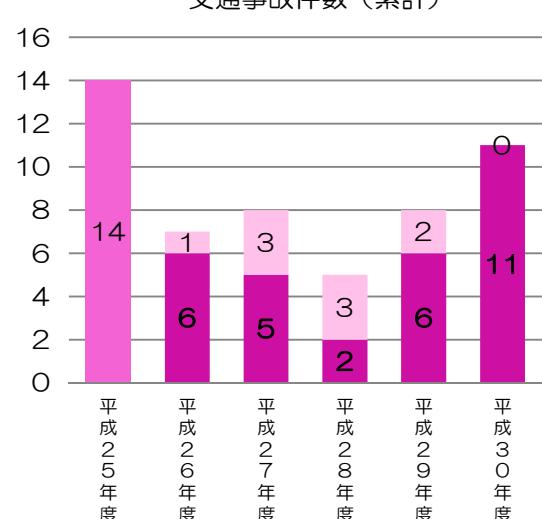
原因 上方確認不足



原因 風



原因 右側確認不足



■収集運搬車（ミジタコ搭載） ■営業車（ミジタコ搭載）

事故記録は共有し、事故ゼロを目指しています。

平成29年度、平成30年度と事故件数が増加してしまっていることを受け、朝礼時の確認、ドライバーへの安全教育の徹底を実施しております。

ハイライト

トロンメルの導入

平成28年3月、手選別や振動振るい機では選別できなかった、廃棄物に付着した細かい付着物まで除去が可能となる、自社開発のトロンメルを導入しました。

導入により、管理型混合廃棄物を今まで以上に細かく選別できるようになります。



Highlights

<特徴>

- ・スクリーン径を変えることで、様々な処理物の選別が可能
- ・六角ドラム方式採用により、目詰まりしにくい
- ・シンプルな構造で、消耗品の交換や保守点検が容易

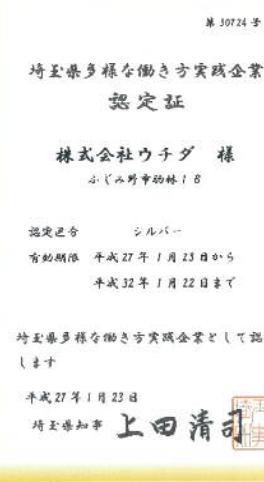
埼玉県多様な働き方実践企業に認定されています

埼玉県では、女性の力で埼玉経済を元気にする「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」を進めており、その一環として、「多様な働き方実践企業」を認定し、女性がいきいきと働き続けられる環境をつくり、従業員の仕事と子育て等の両立についての社会的気運の醸成を図っています。

株式会社ウチダも管理職（役員を含む）のうち女性が10%以上在籍していること等の認定基準を満たし、平成27年1月から認定を受けています。



★★★



地域功労者表彰・感謝状授与

平成28年6月17日 公益社団法人 全国産業廃棄物連合会より地方功労者表彰を受けました。

また、11月1日には、ふじみ野市長より、ふじみ野市・三芳町環境センター建設事業推進への貢献について、感謝状を授与されました。



「ウチダ」の木くずリサイクル

建設現場



畜産農家等へ



*畜産農家等では敷料として利用されます

家畜の糞尿を加え堆肥を生産



ウチダ 上尾工場

受入・展開



検査・粗選別



優良品を選別



保 管



一次破碎機



二次破碎機

自社開発 スイングハンマー式破碎機

水田の肥料に使用



キャベツ畑に使用



ブランド
キャベツ

畜産農家の言葉

肉牛団地



ウチダの生産する木くずの敷料（おがこ）は、皮膚に刺さらないので牛や豚がとても喜びます。

安心して寝そべることができるのでストレスが少なく、肉質の良い牛が育ちます。異物も全く混入していないので、人気が高く牧場間で取り合いをしているほどです。もっとたくさん供給するよう努力をお願いします。



農業生産者の言葉

キャベツ生産者

ウチダのおが粉を使った敷料に家畜ふんが混ざると、とてもバランスの良い堆肥ができます。他の堆肥と比べてキャベツの生育がとてもよく、1.5倍ほどの大きさに育ち、味がとても良いため、ブランドキャベツとして全量百貨店に販売しています。百貨店でも人気の商品だそうです。

環境とのかかわり

廃棄物取り扱い実績（平成29年度・30年度実績）

廃棄物受入量 (m³)		
	平成29年度	平成30年度
がれき類	7,105	7,191
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,907	7,835
廃プラスチック類	17,135	15,302
金属くず	3,276	2,525
紙くず	11,781	9,865
木くず	14,325	12,872
繊維くず	28	24
ゴムくず	1	0
合計	62,558	55,614

選別
破碎
圧縮・梱包
圧縮

リサイクル量 (t)		
	平成29年度	平成30年度
がれき類	6,828	6,500
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,853	7,287
廃プラスチック類	7,139	6,003
金属くず	3,562	2,446
紙くず	4,425	3,778
木くず	9,288	8,350
繊維くず	8	7
ゴムくず	0.6	0
混合残渣	305	215
合計	40,408	34,586

総量 (t)		
	平成29年度	平成30年度
総量	42,985	38,259

最終処分量 (t)		
	平成29年度	平成30年度
最終処分量	2,577	3,674

リサイクル率（平成29年度・30年度実績）

廃棄物の種類	リサイクル量 (t)		用途	リサイクル率 (%)	
	平成29年度	平成30年度		平成29年度	平成30年度
木くず	9,288	8,350	畜産資材（敷料）	100	100
紙くず	4,425	3,778	製紙原料	80	80
			熱原料・固形燃料原料	6	2
			畜産資材	8	13
繊維くず	8	7	畜産資材	71	81
			ダスタークロス原料	19	19
がれき類	6,828	6,500	再生碎石	87	82
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8,853	7,287	再生碎石	82	73
			石膏原料	8	11
			農家資材	1	1
廃プラスチック類	7,139	6,003	熱原料	12	12
			プラスチック原料	80	74
			製造原料	98	97
金属くず	3,562	2,446	製造原料	100	-
ゴムくず	0.6	0	熱原料（焼却・溶融）	11	6
混合残渣	305	215			
合計	40,408	34,586			
				94	90

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。



環境とのかかわり



ISO14001の取り組み

株式会社ウチダでは、2004年1月30日、ISO14001認証を取得しました。

認証に基づき、企業活動によって生じる環境への負荷を、常に低減するよう配慮、改善を行っています。

登録概要

社名	株式会社ウチダ
適用規格	ISO 14001 : 2015
登録番号	AJAEU/19/14771
登録年月日	2004年1月30日
再登録年月日	2009年2月11日 2012年2月11日 2015年2月11日 2018年2月22日
有効期限	2021年2月11日
登録範囲	廃棄物の収集運搬・処分、 破碎機の製造・販売、中古 自動車の購入・販売



登録事業所 本社、販売本部（ふじみ野営業所）、Eco. Amusement Park in AGEO

環境理念

株式会社ウチダは産業廃棄物処理業の一員として良質な社会資本の形成を通し、より豊かな生活を実現する為に重要な役割と責任を担っています。当社の行う事業は環境との係わりが深く、その事業活動の中で環境保全に取り組んで行くことは企業としての当然の責務でもあります。このような観点に立って当社は自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、よりよい環境の創造に努め人間にとって真に快適な環境創造の担い手として経済の発展と環境の保全とが持続的に共存する新しい社会の実現を目指します。

基本方針

当社は環境法規制等はもとより、当社が同意した環境に関する外部からの要求事項についてもこれを順守します。

当社は産業廃棄物処理事業活動において、公害防止や汚染予防に常に取り組んでおります。省資源、省エネルギー、副産物のリサイクル等を含め、汚染回避・低減・管理に積極的に取り組み、環境負荷の低減を図ります。

環境目的・目標の設定・目標達成のための実施計画を策定・実施し、それらの見直しや是正・予防措置を通じ環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。

この環境方針は当社内の全社員に周知するほか、社外に開示します。

株式会社ウチダ 代表取締役 会長 1月 - 二三

環境とのかかわり

平成30年度活動実績・令和元年度活動目標

項目	平成30年度		達成度	令和元年度 目標
	目標	実績		
省エネルギーへの取り組み				
ふじみ野事業所				
事業所へのパッシブソーラーハウスの導入（2008年）	維持	維持	○	維持
水道水浄化用浸透膜装置の導入（2008年）	維持	維持	○	維持
太陽光発電装置の導入（2008年）	1,600Kwh の売電	1,009Kwh の売電	△	1,000Kwh の売電
グリーン調達の推進	購入額の85%	購入額の32.8%	×	購入額の35%
カーボンオフセット付名刺の導入	導入率55%	導入率28.5%	△	導入率30%
上尾工場				
エコドライブの徹底	4.6Km/L	4.47Km/L	○	4.6Km/L
ドライバーズマニュアル (2009年策定) の周知徹底	継続	継続	○	継続
CO ₂ 排出量*	前年比1%減	1015.7t-CO ₂ 1.4%増	△	前年比1%減
環境対応車両の導入（導入比率）	66台/94台	60台/91台	△	65台/93台
事業所・工場の照明LED化推進	全照明の60%	1.3%/年 増 施設全体の60%	○	全照明の60%
エコドライブの推進 (ドライブレコーダー、デジタルタコメーターの導入推進)	維持	維持	○	維持
資源の有効利用の推進				
リサイクル率の向上 現在のリサイクル率 5年後（基準年平成24年実績）平成29年度実績で100%を目標とする	100%	90%	△	100%
工場施設メンテナンスの内製化による長期使用と効率化の推進 (総整備件数中の自社整備件数)	95%	95%	○	95%
収集運搬車両のメンテナンス内製化による長期使用の推進 (点検整備総数分の自社整備件数)	95%	95%	○	95%
生物多様性の確保				
木くずの再資源化の推進 (量の拡大) 敷料→堆肥化⇒有機減農薬農法の推進⇒生態系への環境負荷の軽減	前年比3%増	10.1%減	△	前年比3%増
水田・芋畑の管理、協力	6 t 収穫	6 t 収穫	○	6 t 収穫

*CO₂排出量は、(株)ウチダの排出量責任範囲である部分のみ（委託先の数値は合算していない）。



環境とのかかわり



製造部門の実績

株式会社ウチダは産業廃棄物の処理だけではなく、処理機械の開発・製造・販売・維持管理も行っています。



環境展にて

製造装置の一例

モンスター	スリースター	ユニバーサルクラッシャー
<p>MONSTAR モンスター スイングハンマー破碎機</p> <p>ダイレクトモータードライブ方式採用</p> <p>レオシリーズ ウチダ</p>	<p>廃プラスチック用破碎機</p> <p>スリースター</p> <p>simple and powerful</p> <p>three star</p> <p> uchida co., LTD.</p>	<p>—スイングハンマー式破碎機—</p> <p>ユニバーサルクラッシャー</p> <p> uchida CO., LTD.</p>
<p>用途：木くず、石膏ボード、紙くず、廃畳、硬質プラスチックの破碎 大型大容量処理破碎機。 投入口を特に広く設計。一次破碎機に最適。 特殊構造の投入スロープ床により細かな木くず、石膏片も吸引。 カップリングを介したダイレクトモータードライブ方式を採用。</p>	<p>用途：軟質プラスチック、硬質プラスチック、繊維くず、紙くず、木くずの破碎 軟質、硬質を問わずあらゆるプラスチック製品を剪断破碎。 軟質プラスチック（特にシート系）の処理能力が抜群に向上。 低振動、低騒音。 バリエーション豊かなロストルと固定刃の組み合わせにより、粒度調整が可能。</p>	<p>用途：木くず、硬質プラスチック、石膏ボード、廃畳の破碎 特殊構造の投入口スロープ床により、細かな木くず、石膏も吸引。 コンパクト。</p> <p>*いずれも、シンプルな構造の為、頑健。消耗品の交換等保守点検も容易です。</p>

販売実績

納入先	納入機器
北海道旭川市	モンスター・ユースター・振動ふるい機・風力選別機・バーク用破碎機 (振動ふるい付)
埼玉県岩槻市	ユースター・磁選機・ベルトコンベア・ユースター用モーター
沖縄県具志川市	モンスター
愛媛県西条市	モンスター・磁選機・ベルトコンベア
新潟県新潟市	圧縮梱包機
静岡県浜松市	振動ふるい機

環境とのかかわり



製造装置設置例

「モンスター」と「ベルトコンベア」「磁選機」を設置。塩ビ管・継手を破碎して塩ビペレット（チップ）を製造。



「モンスター」と「ユースター」を設置。オガコを製造。



装置のメンテナンス例とパーツ保管



破碎機の刃

破碎機の刃

(オーバーサイズをリターン
させるために使用)



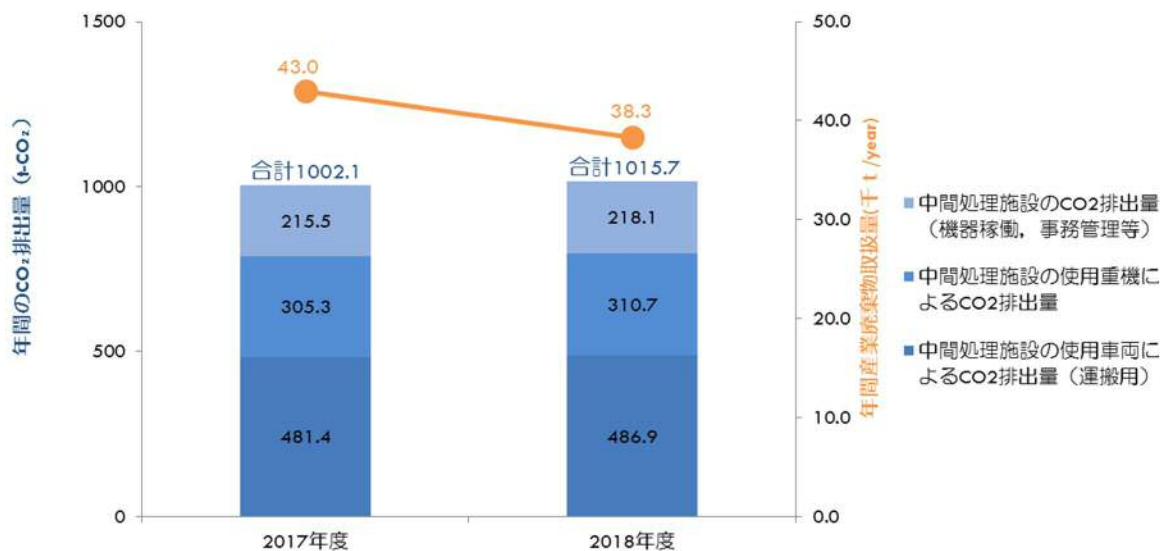
環境とのかかわり



CO₂排出量（平成29年度・平成30年度）

項目		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)
産業廃棄物取扱量 (t)		42,985	38,259
CO ₂ 排出量 (t-CO ₂) (株)ウチダの 責任範囲	中間処理施設の年間総CO ₂ 排出量 (機器稼働, 事務管理等)	215.5	218.1
	中間処理施設の使用重機によるCO ₂ 排出量	305.3	310.7
	中間処理施設の使用車両によるCO ₂ 排出量 (運搬用) 注)	481.4	486.9
	合 計	1002.1	1015.7
委託先の 責任範囲	参考：(株)ウチダからの廃棄物処理（委託）に によるCO ₂ 排出量（焼却・溶融, 埋立）	191.6	199.3
	総 合 計	1193.8	1215.0

注) 産業廃棄物輸送における運搬車両全体のCO₂排出量である。



年間CO₂排出量内訳
2018年度



算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。

環境とのかかわり

CO₂排出量の明細

算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

使用電力によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量[t-CO}_2\text{]} = \text{電力消費量[kWh]} \times \text{使用電力会社排出係数 [t-CO}_2\text{/kWh]}$$

2017の排出係数 0.474×10^{-3}
2018の排出係数 0.462×10^{-3}



- 排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)
- 太陽光発電による電力売却分は合計に対し減算

➤排出係数は減少しているが、電力消費量が増加しているのに伴いCO₂排出量が増加。

四捨五入で計算して表記していることから合計値が合わない場合があります。

項目	2017年度		2018年度	
	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kWh/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
上尾	444,616	210.7	462,723	213.8
ふじみ野	11,038	5.2	10,371	4.8
太陽光発電(売却)	-1,082	-0.5	-1,009	-0.5
合計	454,572	215.5	472,085	218.1

使用重機によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量[t-CO}_2\text{]} = \text{燃料消費量[kl]} \times \text{使用燃料排出量算定係数[t-CO}_2\text{/kl]}$$



- fuLは灯油を基剤とし添加剤を加えた燃料のため、排出量算定係数は灯油の係数を使用

➤燃料消費量、CO₂排出量が若干増加。算定係数の大きい軽油の使用量増加が要因。

項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2017年度		2018年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
ガソリン	2.32	4.0	9.2	3.11	7.2
軽油	2.58	100.3	258.8	107.62	277.7
その他(fuL燃料)	2.49	15.0	37.3	10.36	25.8
合計		119.2	305.3	121.09	310.7

運搬車両によるCO₂排出量（燃料法）

$$\text{CO}_2\text{排出量[t-CO}_2\text{]} = \text{燃料消費量[kl]} \times \text{使用燃料排出量算定係数[t-CO}_2\text{/kl]}$$

- 中間処理施設への搬入、中間処理施設からの搬出の合計



➤燃料消費量、CO₂排出量がわずかに増加。

項目	排出量算定係数 (t-CO ₂ /kl)	2017年度		2018年度	
		エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	エネルギー消費量 (kl/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
ガソリン	2.32	7.9	18.4	7.83	18.2
軽油	2.58	177.5	457.9	179.59	463.3
CNG・LPガス	3.00	1.7	5.2	1.80	5.4
合計		187.1	481.4	189.22	486.9

参考：(株)ウチダからの廃棄物処理（委託）によるCO₂排出量

$$\text{CO}_2\text{排出量[t-CO}_2\text{]} = \text{廃棄物持ち込み量[t]} \times \text{廃棄物処理原単位[t-CO}_2\text{/t]}$$

- 中間処理後の焼却・溶融、埋立処分（委託処理）について算出

➤(株)ウチダでの廃棄物受入量は減少しているが、CO₂排出量が増加。最終処分におけるCO₂排出量が増加したため。

➤委託先企業が負担する範囲となる。

項目	廃棄物処理原単位 (t-CO ₂ /t)	2017年度		2018年度	
		廃棄物持ち込み量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	廃棄物持ち込み量 (t/年)	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)
埋立処分(委託処理)	0.038	2,577.5	97.7	3,673.6	139.3
焼却・溶融(委託処理)	0.262 0.411 0.283 持込み先による	305.0	94.0	214.6	60.1
合計		2,882.4	191.6	3,888.2	199.3



環境とのかかわり



CO₂排出量の経年変化

平成25年度（2013年）～平成30年度（2018年）

算出：明治大学理工学部 建築材料研究室

使用電力によるCO₂排出量



使用重機によるCO₂排出量



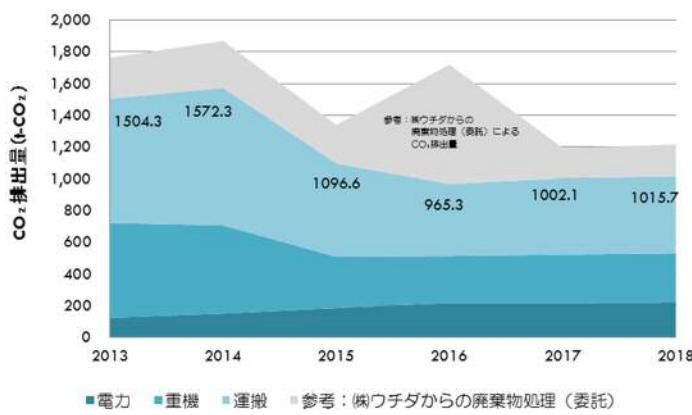
運搬車両によるCO₂排出量 (燃料法)



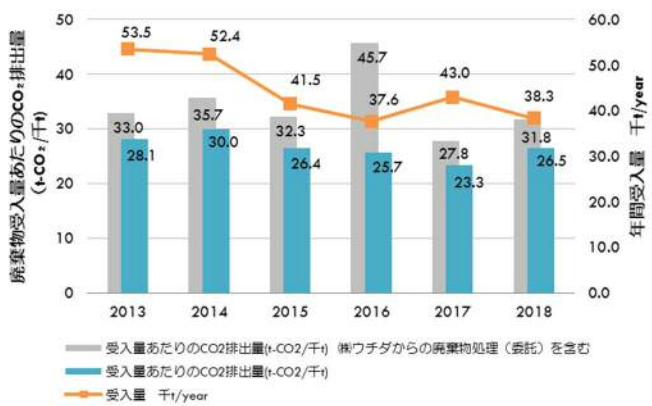
参考：(株)ウチダからの廃棄物処理（委託）によるCO₂排出量



CO₂排出量（合計）



年間産業廃棄物受入量あたりのCO₂排出量





優良認定

優良産廃処理業者認定制度とは、常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。平成22年度の廃棄物処理法改正に基づいて創設されました。

株式会社ウチダでは、廃棄物処理法改正前の旧制度（優良性評価制度）から情報開示等を進め、平成23年5月から順次、埼玉県 産業廃棄物処分業、東京都、埼玉県、群馬県、千葉県、神奈川県の産業廃棄物収集運搬業で優良認定を受けています。

※ 東京都については、「産廃工キスパート」認定（収集運搬業 積替え保管を除く）も第1回認定（平成22年2月）から継続して取得しております。（認定番号4-17-A0046）

業種		産業廃棄物収集運搬業許可証		
住 所	埼玉県ふじみ野市鶴谷1番地			
氏 名	株式会社フジダ			
〔個人における登録の 及び法人における登録〕		代表取締役 内川 一二三		
権利者の名前及び権利を有する法規に掲げる法律第14条第1項の許可を受けた者であることを認する。				
許可の年月日	平成 31年 4月 3日 〔照付許可年月日 平成 4年 3月 23日〕			
許可の有効年月日	平成 3年 3月 22日			

<p>許可番号 第01200030676号</p> <p>産業廃棄物収集運搬業許可証</p> <p>住 所 埼玉県ふじみ野市耕林18番地</p> <p>氏 名 桑田昌史 氏別名 代謝収納業 内田 一二三</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第1項の許可を受けた者であることを証する。</p>	 
<p>千葉県知事 紺木 喜田</p> <p>許 可 の 年 月 日 平成29年11月27日</p> <p>許可の有効年月日 平成36年9月24日</p>	
<p>1. 事業の範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業の区分 収集・運搬 (荷役・保管を除く。) (2) 産業廃棄物の種類 ア. 一般廃棄物 リサイクル系 (石炭含有産業廃棄物及び水銀蛍光灯品種廃棄物を含む。 自燃性危険物を含む。) イ. 危険物 (未定) 	

(1) 葉の部分
枝葉・葉脈(葉脈は枝葉を除く)

(2) 落葉樹葉の種類
椎・松・泥炭・荷腐・荷葉・荷アルカリ、複プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、不燃物質包装、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、れきき
(石硝等有機農業用物質を含む) (木製樹脂製農業用物質を含む) (II, III, 4種類)

2 種替人登録設置

3 許可の条件
「農業物の貯蔵及び技術に関する法律」、「高麗の建緑と安全を確保する規則に関する条例」及びその他の法律を遵守すること。

4 許可の更新・変更の取扱
平成 13年 1月 1日付 新規許可
平成 13年 3月 1日付 变更許可 第 1回

5 種替人登録の有無 無

6 規則第 9 条の 2 第 6 項の規定による許可証の履歴の有無 無

(以下余白)



認定番号:4-17-A0046

¹ 本研究中“人”指的是一般人，即非专业人员，如学生、教师等。



環境とのかかわり



各種試験結果報告

試験・分析の内容	試験実施日	試験・分析の結果
混合廃棄物（中間処理破碎物）の放射性セシウム濃度試験	平成31年3月15日	放射性ヨウ素I-131 不検出 放射性セシウムCs-134 不検出 放射性セシウムCs-137 不検出
混合廃棄物（中間処理破碎物）の熱しやく減量計量	平成28年12月7日	4.76%
おがこの肥料分析	平成19年3月2日	クロム、カドミウム、鉛、ヒ素、水銀、ニッケル いずれも不検出
おがこの食品衛生検査	平成31年3月25日	黄色ブドウ球菌 隆性 E.coli 30未満/100g (不検出) サルモネラ 隆性 腸管出血性大腸菌O-157 隆性

混合廃棄物（中間処理破碎物）の放射性セシウム濃度試験

試験結果報告書
第 1905-308-01 号 (1/1)
平成 31 年 03 月 28 日

株式会社ウチダ 様

試料の名前等
混合廃棄物(中間処理破碎物)

一般社団法人 埼玉県農業技術研究センター
埼玉県さいたま市大宮区上町1450番地11
電話番号 048-691-1141(代表)
郵便番号 330-0855

採取日
平成 31 年 03 月 14 日
採取者
三月廿日受付
採取者監査
黒山孝一
(登録番号 6422号)

ご苦難による試験の結果を下記のとおり報告します。

試験の対象	試験の結果	手段	試験の方法
放射性ヨウ素I-131	不検出	Bq/kg	放射能測定(ラジオイオメータ)
放射性セシウムCs-134	不検出	Bq/kg	放射能測定(ラジオイオメータ)
放射性セシウムCs-137	不検出	Bq/kg	放射能測定(ラジオイオメータ)
合計			

試験結果
平成 31 年 03 月 27 日 14 時 00 分
放射能測定(ラジオイオメータ) (平成 31 年 03 月 27 日 14 時 00 分)
(ラジオイオメータは測定結果に大きな誤差(誤差±10%)を有す)
試験結果
放射性ヨウ素 I-131(Bq/kg) : 0.00(Bq/kg)
放射性セシウム Cs-134(Bq/kg) : 0.00(Bq/kg)
放射性セシウム Cs-137(Bq/kg) : 0.00(Bq/kg)
試験結果は参考値となります。

測定機器
・ゲルマニウム半導体検出器ゲルマニウムカウントメーター (GEM)社製 GEM002
測定時間 : 100 秒 U-1 程度
測定距離 : 3.11 kg
測定場所 : 一般社団法人 埼玉県農業技術研究センター
測定者名 : 黒山孝一

混合廃棄物（中間処理破碎物）の熱しやく減量計量

試験結果報告書
第 1612-258-01 号 (1/1)
平成 28 年 12 月 29 日

株式会社ウチダ 様

試料の名前等
(A) 混合廃棄物(中間処理破碎物)

一般社団法人 埼玉県農業技術研究センター
埼玉県さいたま市大宮区上町1450番地11
電話番号 048-691-1141(代表)
郵便番号 330-0855

採取日
平成 28 年 12 月 27 日 10時 45分
採取者
12月29日受付
採取者監査
黒山孝一
(登録番号 6422号)

ご苦難による試験の結果を下記のとおり報告します。

試験の対象	試験の結果	手段	試験の方法
熱しやく減量	4.76%	Bq	熱能測定法

おがこの肥料分析

分析報告書
平成 19 年 3 月 12 日

株式会社ウチダ 様

試料名 : おがこの肥料
分析の種類 : 肥料分析(通常試験)
採取日 : 平成 19 年 3 月 2 日
採取者 : 黒山孝一
(登録番号 6422号)

分析結果
(1) 便酸性アノニア試験の結果、上記内容は検査の結果により算入しました。

上記結果について、分析の結果を下記のとおり報告します。

分析項目	分析結果	単位	定量下限値	分析方法
カルシウム(Ca)	不検出	%	4.00	電気伝導度法(ISO2578)
マグネシウム(Mg)	不検出	%	1.50	電気伝導度法(ISO2578)
鉄(Fe)	不検出	%	0.001	電気伝導度法(ISO2578)
土鉄(Ti)	不検出	%	0.0005	電気伝導度法(ISO2578)
土鉄(Ti)	不検出	%	0.0005	電気伝導度法(ISO2578)
二酸化マanganese(Mn)	不検出	%	0.0005	電気伝導度法(ISO2578)
総アルカリ	不検出	%	0.0005	電気伝導度法(ISO2578)

分析結果
(2) 便酸性アノニア試験の結果、上記内容は検査の結果により算入しました。

上記結果について、分析の結果を下記のとおり報告します。

分析項目	分析結果	単位	定量下限値	分析方法
カルシウム(Ca)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
マグネシウム(Mg)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
鉄(Fe)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
土鉄(Ti)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
土鉄(Ti)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
二酸化マanganese(Mn)	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)
総アルカリ	不検出	%	0.000	電気伝導度法(ISO2578)

おがこの食品衛生検査

試験検査成績書
08161905-01 号
平成31年4月2日

株式会社 ウチダ 様

試験品の名前 : 接体 A

付記事項

平成31年 3月25日 付で 提出された試験品について行った検査の結果は下記のとおりです。

厚生労働大臣登録検査機関
一般社団法人
埼玉県食品衛生協会検査センター
〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上町1450番地

試験項目	試験結果	検出限界	試験方法
黄色ブドウ球菌	陰性	胆汁加テニット食塩寒天培地法	
E. coli	30未満/100g(不検出)	EC培地法	
サルモネラ	陰性	BPW増菌法	
腸管出血性大腸菌O-157	陰性	過伝子検出法	

以下余白



地域・社会とのかかわり



地域農業支援

田植え



収穫作業



埼玉県産 コシヒカリ

いるま野農業
協同組合主催
の秋の収穫祭
農産物品評会
において、
特別賞を受賞
しました



地域清掃活動

埼玉県「地域清掃気軽に登録制度」に
平成29年8月登録しました。

- 【活動頻度】年1回以上
- 【活動人数】15名
- 【活動地域】道路・広場／公園
(代々木公園／渋谷／原宿周辺
上尾市領家工業団地内)



年間行事の一環として、年に2回清掃・美化活動を行っています。
【活動頻度】年1回以上
【活動人数】15名
【活動地域】道路・広場／公園 (代々木公園／渋谷／原宿周辺、上尾市領家工業団地内)

平成30年6月22日実施 上尾領家工業団地清掃





お客様とのかかわり

工場見学会・お客様向け勉強会

株式会社ウチダでは、お客様である廃棄物の排出事業者の皆様をはじめ、広く一般に、隨時処理施設の見学を受け入れています。

排出事業者の皆様には、現場で分別された廃棄物が処理される様子や、自社開発のリサイクル機器の性能、工場での環境配慮の実際をご確認頂いております。

また、ご要望に応じて、現場監督や作業者への現場分別指導や、排出事業者として順守しなければならない法規制等の内容についての勉強会を行っています。



平成30年4月13日実施 排出事業者による見学の様子



平成30年6月29日実施 排出事業者勉強会・見学会の様子



平成31年1月17日実施 排出事業者による見学の様子



社内勉強会

株式会社ウチダでは、産業廃棄物処理業をはじめとする各分野で、社員ひとりひとりがプロフェッショナルとして通用する人材に育つよう、資格取得の奨励はもとより、定期的に環境関連法令等の社内勉強会を開催したり、外部講習会へ積極的に参加させるなどして、社員教育、人材育成に力を入れています。



＜平成30年度社内勉強会実施状況＞

日付	内容
平成30年4月21日	<ul style="list-style-type: none">廃棄物の処理及び清掃に関する法律の一部を改正する法律の概要石綿含有建築用仕上塗材の石綿則等の適用について石綿含有建築用仕上塗材解体現場分析結果について他社での廃石綿等の積替保管の許可取得について
平成30年5月26日	<ul style="list-style-type: none">太陽光発電設備のリサイクル等の推進に向けたガイドライン第一版概要について行政処分の事例中国廃棄物輸入制限について
平成30年9月22日	<ul style="list-style-type: none">中国廃棄物輸入制限に伴う影響について行政処分、不適正処分等の事例残置物通知パンフレット
平成30年10月26日	<ul style="list-style-type: none">石綿含有建築用仕上塗材解体現場について建築物の解体・改修等における石綿ばく露防止対策等検討会第1回資料より廃太陽光パネルの処理について
平成30年12月1日 平成31年1月5日	<ul style="list-style-type: none">建設系廃棄物マニフェストのしくみについて

＜平成30年度外部講習会受講状況＞

修了日	講習会の名称	実施者	了証番号
平成30年9月10日	一般廃棄物実務管理者講習	一般財団法人 日本環境衛生センター	第18110030号
平成30年10月23日	登録解体工事講習	一般財団法人全国建設研修センター	第0218-151042210号
平成30年10月24日	産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会（更新）の収集・運搬課程	公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター	第518086031号



社員とのつながり



安全衛生の取り組み

株式会社ウチダでは、日々安全を念頭におきながら企業活動を行っていくため、安全衛生教育や労働安全衛生についての活動を行っています。

防災訓練



作業手順書

産業廃棄物処分作業手順書

収集運搬担当者の作業手順マニュアル



平成20年12月
平成24年4月改訂

株式会社 ウチダ
ECO AMUSEMENT PARK IN AGEO
<http://www.eco-uchida.com>



場内安全標識



KY活動実施の様子



事故防止のため重機と人の動線を区画する
パイロンとバーの設置、RL2マスク装着



安全帯の使用



第三者意見

1. 産業廃棄物処理業界を取り巻く環境について

廃プラスチック類を巡る世界の情勢が著しく変化する中、国内においても、過剰保管や排出量の抑制が喫緊の課題の一つとして強く意識されるに至りました。また、米中の貿易摩擦に代表される様々な情勢も国内経済に影響を与え始めています。このような背景の下、一方ではSDGsへの関心も高まっており、廃棄物処理業界も適正処理はもちろんのこと、リサイクル原料の製造を担う製造業者としてしっかりとした立ち位置に立つ覚悟が更に求められています。そのためには

- ① 適切な情報公開がなされていること
- ② リサイクル率が極めて高いこと
- ③ 確実なりサイクル先を確保していること
- ④ リサイクル先の受け入れ基準に合致する品質を担保すること

の少なくとも4点を、中間処理業者は常に満足させる必要があります。

これらの視点から株式会社ウチダの業態を見てみると、木くずと塩ビ管のリサイクルの事例に端的にみられるように、きれいなりサイクルループを描くことのできる事業に積極的に取り組んでいることがわかります。また、環境報告書の発行など、上記のいずれのポイントについて十分に排出事業者をはじめとする社会の要請に応える姿勢を保ち続けています。

この企業姿勢は同業他社だけでなく、多くの製造業にとっても学ぶ価値のあるものだと思われます。

2. 株式会社ウチダに期待すること

一方で、廃棄物の受け入れ量の減少、リサイクル比率の減少など、景気の停滞を含めて廃棄物を取り巻く社会情勢が悪化しつつあるのではないかとの懸念が生じているように感じます。今回の報告書データからは、受け入れ廃棄物の品質が劣化している様子も見受けられます。そのようななかでもリサイクル率90%を保っていることについては、貴社の努力のたまものとして評価することができます。しかしながら、今までの延長では、今後の社会情勢の変化に対応することが困難になることも予想されます。それを乗り越えるためには、更なる工夫と努力に加え、新たなことにチャレンジする必要もあると思われます。かなり困難な挑戦になることは否めませんが、勇気をもって挑戦していただきたいと思います。

理想実現に向けた御社の積極的な活動に期待いたします。

早稲田大学 環境総合研究センター
招聘研究員 上川路 宏

ご意見をいただいて

株式会社ウチダ CSR報告書2019について、貴重なご意見及びご指摘をいただき誠にありがとうございました。

プラスチックを取り巻く環境が大きく変化する中、令和元年9月4日に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則の一部を改正する省令」が公布され、即日施行となりました。

この点からも、日本国内において課題になっていることが伺えます。

弊社の廃プラスチック類の処理については、排出事業者の方々の御協力と企業努力により高品質なりサイクル原料を製造することで国内にてリサイクルを完結できるルートとなっております。

ご指摘頂きました事項につきましても、ステークホルダーの期待と信頼に応えるべく、今後も継続して改善を図り、経済の発展と環境の保全とが持続的に共存する新しい社会の実現を目指し努力していきたいと考えております。

株式会社ウチダ CSR実行委員長 内田 朋美



営業本部
(ふじみ野営業所)

ECO.AMUSEMENT PARK IN
AGEO (上尾工場)

〒356-0052 埼玉県ふじみ野市苗間1-6-10
TEL : 049-293-1128 FAX : 049-293-1126

〒362-0066 埼玉県上尾市領家字中井1119-1
TEL : 048-782-0201 FAX : 048-782-0204

E-mail: e-eco-uchida@bh.wakwak.com